

## ■ ご挨拶



名誉顧問

在上海日本国総領事館  
総領事

## 磯俣 秋男

みなさま、はじめまして。1月10日に、在上海日本国総領事として着任いたしました磯俣秋男です。多くの日本人が居住し、また、日系企業も多く進出している華東地域で仕事をさせて頂くこととなり、身の引き締まる思いです。虚心坦懐に各界の皆様の意見やアドバイスをお伺いし、当地の現状への理解を深めながら、邦人の皆様の安全確保、日系企業の皆様の円滑な事業活動への支援等の各種業務について微力を尽くして参ります。

私はかつて1980年代半ばに北京大学で研修を受けた後、1990年代の終わりから2000年代の初めにかけて、北京の大使館で勤務いたしました。その頃の上海は、東方明珠ができてようやく数年経った頃で、浦東も開発計画は策定されたものの、道路やビルの建設は緒に就いたばかりという感じでした。その後、海外ではスイス(ジュネーブ)、フィリピン、インド、カナダで勤務し、今回約20年ぶりに中国に戻り、その目覚ましい発展ぶりや、社会の変化をまざまざと目の当たりにして、当時と比較するというより、むしろ新鮮な気持ちでこれらの事象や変化を受け止めているところです。

上海日本商工クラブは、会員数約2,400という世界最大規模の日系商工会組織であり、業種別部会、各種委員会等を通じて、調査研究、情報提供から、社会貢献、日本人学校支援等々様々な活動を活発に展

開しておられます。また、近年は事業環境の改善に向けた建議書を市当局に提出するという活動も行っておられ、当館としましても、建議書のとりまとめ、市当局への働きかけ等を含め、引き続き商工クラブの活動に最大限の協力と支援をさせて頂きたいと考えます。華東地域は、6万人近くの在留邦人、約2万の日系企業の拠点を擁し、これまで、そしてこれからも日中両国の経済・文化・人的交流の最先端、主役の地であると言え、私も、今回このような華東地域の発展と交流の大きな流れに加わることができ、本当にうれしく思っております。

両国関係に目を向けますと、日中関係は正常な発展の軌道に復し、今や新たな段階へと進むことが期待されています。また、本年は「日中青少年交流推進年」であり、今後5年間で3万人規模の青少年交流が計画されています。今年には日本でG20の各種会合も予定されており、中国のハイレベルの再なる訪日も期待される所です。さらに、来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピック。そして、その2年後となる2022年に、日中両国は国交正常化50周年を迎えます。両国の関係が力強く動く、大切な時期を迎えている中で、皆様とともに、両国関係を新たな段階へと推し進め、より豊かな実りのある日中関係を切り拓いて参りたいと存じます。

どうぞ宜しくお願いいたします。